

シンガポールと一体で発展を目指せ！ ～大型プロジェクトが相次ぐイスカンダル～

マレーシアのジョホール州ではイスカンダル開発計画に基づいて大規模な都市開発が行われています。2,217 km²というシンガポールの国土の約3倍に達する広大な地域に、多角的工業団地のほか、大学やテーマパーク、高級住宅地などが整備されつつあります。

今回、このイスカンダル地域を視察する機会を得ましたので、概要をご報告いたします。

1. イスカンダル計画の概要

イスカンダル計画は2006年にアブドラ大統領（当時）により発表されました。シンガポールに近接し、土地と人材が比較的安価に調達できることから、シンガポールと同一の経済圏として発展が期待されています。イスカンダル計画では、2025年までに、人口を300万人、一人当たりGDPを31,100USドルにするなどの目標を設定しています。

この開発計画の推進に当たり、マレーシア政府は、当該計画を統括する「イスカンダル地域開発庁（Iskandar Regional Development Authority (IRDA)）」を設置しています。IRDAは、①計画、②広報、③調整を責務としており、マスタープランの作成、政策や法整備、ブランド価値の確立、投資促進のための広報周知、ディベロッパーの調整などを行っています。

●イスカンダル計画の目標

	2006年現在	2025年目標
人口	140万人	300万人
一人当たりGDP	14,790	31,100
労働人口	62.4万人	146万人
雇用	61万人	142.8万人



イスカンダル全体図
(Iskandar Malaysia ホームページより)

イスカンダル開発計画では特に金融、観光、教育、物流、医療、クリエイティブのサービス業6分野及び、電気・電子、油脂・石油化学、食品・農産物加工の製造業3分野を重点分野として投資の誘致を進めています。イスカンダル地域内はA～Eの5つの地区に分けられ、それぞれ以下の分野に特化した開発が行われています。

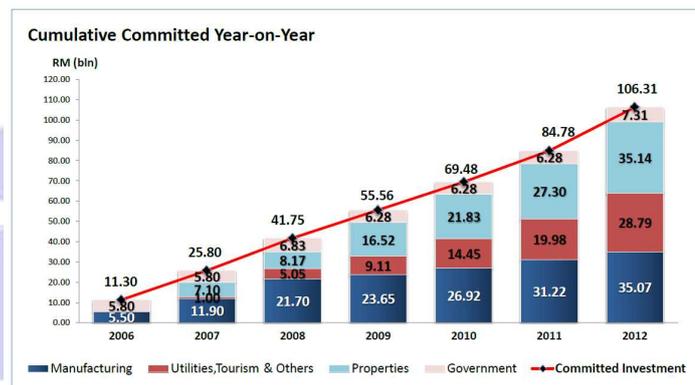
A ジョホールバル都市部	国際貿易、金融センター、サービスセンター（コズウェイでシンガポールと連結）
B ヌサジャヤ地区	海外大学の誘致、テーマパークなどのエンターテインメント・医療観光などのサービス産業、州政府

	機能
C タンジュン・プルパス港周辺区	物流拠点、自由貿易区域、石油備蓄港、(セカンドリンクでシンガポールと連結)
D パシル・グダン港周辺区	電気・化学・油脂化学製品の製造業、石油化学備蓄港
E セナイ空港周辺区	物流拠点、ハイテク産業・宇宙関連産業、商業施設、サイバーシティ

(2) 投資促進のための環境整備

2011年5月、ナジブ大統領は新たな優遇制度「Flagship Investment Iskandar Malaysia (FIM)」を発表しました。FIMの対象となるのは、観光分野、保健・医療分野、教育分野であり、①5年間の法人税免税又は5年間の投資税額控除、②設備投資に係る輸入税・所得税の減税、③外国人知識労働者の柔軟化、④中央銀行による外国為替管理規則の柔軟化の4点において優遇措置を受けることができます。

こうした優遇制度の活用等により、イスカンダル地域への投資累積額は順調に増加を続けており、2012年には1,000億リンギ(約3兆円)を超えています。



To ensure committed investments are delivered

Source: IRDA, Khazanah, IIB, MIDA & corporate announcements

イスカンダルへの投資累積額の推移
(IE シンガポールホームページより)

(3) 交通網の整備

政府は充実した交通網を整備するため、過去5年間でインフラ整備に90億リンギ(約2,700億円)を投じています。イスカンダルにおける最大のインフラ事業の一つとして整備された海岸高速道により、ジョホールバルとヌサジャヤとの間は30~40分間での移動が可能となりました。その他にも、東部高速道やセナイ空港道路などの道路整備が進み、当該地域における交通網の充実が図られています。こうした陸上交通網により、世界水準の港湾設備として整備されているタンジュン・プルパス港、タンジュンランサット港、ジョホール港の3つの港と、工業団地等のネットワークの円滑な連結が可能となっています。

また、イスカンダル地域内を17のルートで結ぶバスイスカンダルや、高速バスの導入など、公共交通機関の発達による交通渋滞の軽減が図られているほか、高速交通システム(RTS)によりシンガポール・ジョホールバル間の連結が計画されるなど総

合的なインフラ整備が進められています。

さらに、セナイ国際空港とその周辺地域については 20 年間の開発計画が進められており、現在、セナイ空港の輸送可能乗客数は年間 3.5 百万人、輸送可能貨物は 80,000 トンとなっています。

(4) 暮らしやすい街づくり

安全安心な環境整備のため、地域社会の形成や、治安の改善などに力を入れています。2020 年までに、住宅地には監視カメラを 1,500 台設置して常時警備を行うとともに、190 か所の警察官駐在所を設置することとしています。路上警備の車両も増加させるなどした結果、2011 年の犯罪件数は 2010 年と比較して 24%減少するなどの効果が表れています。

また、イスカンダルでは、環境負荷の少ない街づくりを進めるため、マレーシア技術大学・京都大学・岡山大学・日本の国立環境研究所と協力して、「低炭素社会」に関する研究を進めています。この研究を通して、マレーシアでは初めて二酸化炭素排出量の計測が可能な地域となり、2005 年の温室効果ガス排出量に対して 2025 年には 50%の水準とすることを目標としています。

(5) 教育・観光産業の促進

イスカンダル地域では、観光産業や教育産業の集約も積極的に進めています。教育分野においては、ヌサジャヤ地区を教育特区として、海外大学を多数誘致しており、2012 年までにニューキャッスル大学、マルボロカレッジ、サウサンプトン大学などのキャンパスが開設されています。また、これらの大学に通う大学生のための寮の整備や小中学校の開設も進められており、教育都市としての魅力も高まっています。



2012 年にオープンしたレゴランド

観光分野においては、ジョホールプレミアムアウトレット、レゴランドマレーシア、屋内型テーマパークであるハローキティタウンなど観光施設の開業が相次いでいます。また大規模な会議設備を備えた新しいホテルの開業による MICE 誘客や、病院施設の拡充による医療観光の推進など新たな観光資源の開発も進められているところです。

2. タンジュン・プルパス港 (Port of Tanjung Pelepas : PTP)

タンジュンプルパス港はシンガポールや他の東南アジア各国に近い地理的優位性と、大型船も入港できる深さが確保できることなどを活かして開発が進められています。現

在世界各地の160の港と航路で結ばれ、コンテナ取扱量においてマレーシアで第1位、世界でも17位となっています。

タンジュンプルパス港は、エネルギー産業や輸送産業、建設などを総合的に実施しているMMCと、APM Terminalsがそれぞれ70%、30%の株を所有して運営されています。大きくはコンテナ港部分と、隣接する自由貿易区域で構成されており、現在も開発途中にあります。自由貿易区域はPhase1からPhase5までの地域に分けて開発中で、すべて完成後は1,507エーカーになる計画です。既に運営されているPhase2までの区域中、リース部分は既に埋まっており、引き続き問い合わせも多くきているとのことです。既に入居しているのは38社、投資額27億リンギ（約810億円）となり、1万人を超える雇用を創出しています。

また、同港内には、発電所や石油化学工場などの整備が進められており、従来の製造業に加えて重化学分野での成長も見込まれています。



タンジュン・プルパス港



整備が進む Free Zone 用地

3. 終わりに

シンガポールからコースウェイを挟んで車で1時間程度の距離にあるイスカンダルでは、現在でも多くの大型開発が進められているとともに、シンガポールからも不動産の購入や投資などが進み、ますます注目が集まっています。

クレアシンガポール事務所では、今後もイスカンダルを始めとしてASEAN各国の開発計画等の情報を収集してまいります。

(吉本所長補佐 鹿児島県派遣)